

平成26年度

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成26年11月30日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2775004110		
法人名	株式会社 プラティア		
事業所名	グループホームプラティア花園		
サービス種類	認知症対応型共同生活介護		
所在地	東大阪市稲葉2丁目1-13		
自己評価作成日	平成26年11月30日	評価結果市町村受理日	平成27年4月13日

【事業所基本情報】

介護サービス情報の公表制度の基本情報を活用する場合	http://www.kaigokensaku.jp/27/index.php
情報提供票を活用する場合	(別添情報提供票のとおり)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社H.R.コーポレーション
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224
訪問調査日	平成26年12月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針である ①ご入居者様が主人公 ②尊厳を保つ ③いきいきとした生活 ④認知症の進行を防止 ⑤地域社会と共に を柱としたケアに重点を置き、柔軟かつ繊細な対応に努めている。職員は入浴などのケアに関しては利用者が希望される時に対応できるように心がけ、認知症や接遇などの勉強会を実施し尊厳を持って接している。また近隣の店舗に外食や買い物に行ったり、散歩をしたりして閉塞感の無い生活をしていただくように努めている。地域との交流の取り組みを重視し、ボランティアの受け入れも積極的に行っている。人員は人員基準以上の人数で個別に対応できる体制を取っていて、利用者中心の生活環境を提供できるように利用者本位のケアを実践している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

法人理念を基に入居者の尊厳を大切にした支援が行われている。プラティア祭り開催時には近隣住民を招待して交流を持ち、また、地域のボランティアの来訪をうけ日常的な交流を図っている。近隣で生活されている高齢者の事業所見学も増え、介護相談や利用相談を多く受けるようになり、事業所の機能を地域に還元するように取り組む等理解を深めてもらえるようになっている。買物・散歩など個別に外出支援し、利用者一人ひとりの意向を大切にされた個別ケアに取り組んでいる。職員の定着が良く、毎月実施されるユニット会議や全体会議で出された意見や提案などを話し合い、入居者の支援に反映させるように取り組んでいる。定期的な研修を行い、職員の資質向上に努めている。また、各種ミーティングと会議を定期的に行い、連携を密にするとともに、職員が意見・提案を表明できる機会を確保している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次にステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスとしての意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>スタッフルームに基本理念を掲示し、スタッフ会議でも唱和することで、常に意識するよう心がけている。</p>	<p>スタッフルームに基本理念を掲示しており、勤務開始前には必ず基本理念を確認している。基本理念はスタッフ会議の機会に唱和し常に意識し、実践につなげるよう取り組んでいる。利用者への声かけ・話しかけを行う際には、必ず敬語を使う、寄り添い介護で利用者一人ひとりの希望に沿った個別の支援を行うように努め、基本理念の実現に取り組んでいる。理念に基づいて社長が行う入職時・現認者などの研修で理念の理解と浸透が図られている。</p>	
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>近隣の皆様にプラティア祭（秋祭）へご招待し入居者様との交流を図り、施設の活動を理解して頂いている。寄り添い介護で、近隣へ散歩や買い物へ出かけたさい、声を掛けて下さることがある。</p>	<p>事業所の横の畑では地域の方が野菜などを作っており、作業時に挨拶や話をしたり、事業所に収穫できた野菜を持ってこられ、日常的な交流を図っている。プラティア祭り（秋祭り）へ近隣に開催案内を行い近隣住民を招待し交流を持ち、理解を深めている。ドッグセラピーやウクレレ演奏など地域のボランティアの来訪をうけ交流の機会を継続している。子供会で開催される運動会に参加し、理解を深めてもらえるようになっている。近隣で生活されている高齢者の事業所見学も増え、介護相談や利用相談を多く受けるようになり、事業所の機能を地域に還元するよう取り組んでいる。</p>	

3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>地域包括支援センターを軸とした市内7ブロックの地域会議に出席し地域の関連事業者との連携を図っている。更に自治会長と交流もあり、御理解頂いている。</p>		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年間6回（2か月毎）開催。御家族・自治会長・地域包括センター職員を招き事業報告や活動報告並びに意見交換を行っている。</p>	<p>2ヶ月に1回運営推進会議を開催している。家族・地域包括支援センター職員・自治会副会長の方が構成メンバーとなっている。会議では事業所の利用状況、利用者の状況や状態、事業所の活動状況の報告を行い、参加メンバーより</p>	<p>運営推進会議への参加構成要員の再検討を行い、運営推進会議でさまざまな意見や提案を聴取し、地域密着型サービスとしてのサービスの質の向上に取り組むことが望まれる。</p>
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市主催の勉強会、連絡会には積極的に参加している。またサービスや運営等において疑問等あれば問い合わせしている。</p>	<p>市が主催する勉強会や連絡会には法人代表者が参加しており、地域の現状や事業所の状況を把握し、市との連携を図るよう努めている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束しないケアに取り組んでいる</p>	<p>毎月、職員勉強会を行ないスタッフ各自が順に各テーマについて発表する。資料作成や検証し周知することで自身の振り返りや研鑽に努め、チームケアで実践している。 玄関のみセキュリティの問題上施錠を行っている。</p>	<p>年度の研修計画を策定し、各月の研修担当者が中心となり研修を実施している。ベットからの転落防止のために同意を得て一部柵を使用している方はあるが、定期・臨時巡回を利用者の状況に応じて実施しており、ベット柵による拘束が最小限となるよう取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束をやむを得ず実施する場合に最小限となるよう取り組んでいるが、定期的に拘束が必要最小限となっているか、カンファレンスなどで検討を繰り返し行い記録として残し、統一した方針で支援することができるといふことが望ましい。</p>

7		<p>○虐待防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所ないでの虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部の虐待に関する研修に参加することで新しい知識を学び、職員勉強会で取り挙げ注意を促している。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>市などが主催する勉強会に参加し、新しい制度や詳細確認に努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>重要事項説明書、利用契約書等で説明し御理解御納得のうえ、安心して入所して頂けるよう努めている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>常日頃、利用者様のニーズを把握するよう努めている。御家族へは電話やお便り（機関紙「プラティア通信」）で定期的に御連絡のうえ、常時、御様子を見ていただけるようブログに掲載している。また、面会時や運営推進会議で意見交換の機会を設け交流を図っている。</p>	<p>2ヶ月に1回家族に通信を送り、利用者の状態を伝え、意見や要望を出してもらいやすいように、運営推進会議前に出される出欠票で意見や要望を出せるようにしている。面会時や運営推進会議後に利用者家族個別に声かけを行い意見や要望がないか確認している。</p>	

11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを反映させている</p>	<p>毎月に各ユニット毎の会議、またグループホーム合同の会議を開催し、意見や要望を聞き入れる機会を設けている。</p>	<p>職員の定着が良く、毎月実施されるユニット会議や全体会議で出された意見や提案などを話し合い、反映させるように取り組んでいる。会議前には必ず職員から会議で話し合う議題や課題を聴取し話し合った結果をスムーズに反映させるように取り組んでいる。 管理者は普段から職員が意見や提案を出しやすいようにコミュニケーションを密にして、報告・連絡・相談を十分に行うように努め運営やサービスに反映させるように取り組んでいる。個人面談を通して職員からの意見や提案など聴取する機会を持つ必要性を感じ取り組みにつなげることを検討している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>評価される人事考課を実施し、モチベーションの向上に努めている。</p>		
13		<p>○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際の力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>年間の職員研修、フロア別の研修を計画的に実施している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>代表者は、東大阪市介護保険事業者連絡協議会の座長を務め、研修等を交え他の事業者と交流を図り、地域の発展に取り組む。</p>		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初回面接から御本人、御家族様、利用していた介護サービス事業者などから情報収集を十分に行い、円滑な入所を心掛けている。</p>	
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>初回面接時に情報聞き取りに加え、書面での情報収集も御家族にお願いしている。</p>	
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>御本人、御家族と十分な面接を行い、適切なサービスについて助言する。</p>	
18	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>個別化、本人本位、パーソン・センタードケアに沿った支援を提供し、共に寄り添った介護に努める。</p>	
19	<p>○本人と共に過ごし支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>定期連絡は欠かさず、急病時は迅速に対応。御家族様にも安心していただけるよう、信頼していただけるよう、関係作りに努めている。</p>	

20	8	<p>○馴染みの人や場と関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>外出などの要望があれば、寄り添い介護を利用し実現するよう努めている。普段から情報を収集し馴染みの人などに面会を依頼したり、来客のさいは、心地よい時間が提供できるよう努める。</p>	<p>利用者の希望や要望を聴取して寄り添い介護の機会を利用して外出し、馴染みの店や店舗の利用を支援している。利用者の馴染みの人の来訪や面会があれば、気持ちよく過ごし関係継続ができるように支援に努めている。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>個別化、本人本位、パーソン・センタードケアを大切にし「心地よい場所」が提供できるよう、レクリエーション等に工夫を凝らし、寄り添いながら共に生活出来るよう支援している。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>他施設に移られても、年賀状などを送らせていただき様子をお伺いしている。</p>		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	<p>○思いやり意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の会話の中からニーズを聞き出し、希望に添えるように努めている。</p>	<p>自ら思いや意向を言葉にできる方には、生活の場面場面で意向を聞きとり支援につなげるように努めている。自ら思いや意向を言葉で伝えることが難しい方には日々の生活の中で表情や行動から思いや意向を汲み取るようにしたり、家族からこれまでの利用者の行動や生活から思いや意向を汲み取るようにも努めている。 寄り添い介護を計画を立てて支援する中で利用者の発した言葉や表情などから利用者の意向や希望を職員が気づきを持って把握するように努め、寄り添い介護計画・報告書の書面に記録として残すことで利用者への次への支援に活かすように努めている。</p>
24		<p>○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努める</p>	<p>入居前のアセスメントに引き続き、ケアマネ、家族、ソーシャルワーカーの協力の下、生活歴の把握に努めている。</p>	
25		<p>○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている</p>	<p>職員が入居者との会話や生活スタイルを観察し、個々に合ったケアに努めている。</p>	

26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>モニタリングと面会時やお便り、電話で本人のニーズ、家族の思いを導入したい事項に取り入れることを連絡することで連携している。</p>	<p>フェースシートで利用者の個人の情報を収集・記録として残している。把握された情報を基にプラティアGHサービス計画書に身体状況や生活全般にわたり、アセスメントを行い課題抽出し、アセスメント・課題に応じて支援計画を立て個別具体的な支援につなげている。プラティア独自のサービス計画書に明示した項目に応じて3ヶ月に1回モニタリングを行い、6ヶ月に1回計画の見直しを行っている。6ヶ月毎の見直しの際には事前に計画作成担当者が利用者の状態や状況を情報収集しサービス担当者会議を開催し、職員からの意見や気づきを聴取し現状に即した計画になるように反映させている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>利用者個々の介護日誌を記録し、心身の状態の変化や気づきの点を申し送り欄に記入する事で職員の情報共有をしやすくして、モニタリングにも活用している。</p>	/	/
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>入浴困難なさいは、1階のデイサービスの設備を利用する事がある。</p>	/	/

29		<p>○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>近隣のスーパーや、コンビニを活用させていただいている。また図書館などの公共施設も利用している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>希望があれば入居前の主治医の継続は可能であり、ホームの協力医療機関は、週1～2回の割合で往診があり、緊急時は24時間対応出来る体制を確保している。</p>	<p>協力医療機関から週1回往診がり、利用者は隔週で往診を受けている。利用者の状態によって専門医の受診が必要であれば家族が中心となり受診してもらっているが、利用者の状態や家族の状況に応じて職員が支援することもある。利用者の状態に変化があれば随時協力医療機関に連絡・相談し指示を受け、対応を行うようにしている。看護師とは24時間の連絡体制が整えられている。家族が受診支援する時には、利用者の状態や状況、医師の指示に応じて、必要な情報を口答や書面で提供し適切な医療を受けられるように支援している。</p>	
31		<p>○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している</p>	<p>週2回訪問看護があり、日常で体調変化があれば看護師へ連絡、訪問のさい相談や報告並びに説明を受け情報を共有し管理している。</p>		

32		<p>○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院された際は週1回の割合で面会を行い、医療機関より情報を提供していただきフロアで情報を共有している。退院後の対応も予め会議で協議し円滑に進めている。</p>	/	/
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や、終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化した場合やターミナルケアに向け家族や主治医との連絡を密にし、合わせて話し合いの場を設け、今後の方針を明確にしている。</p>	<p>重度化が進み事業所内での入浴が困難な状態になれば利用者・家族の意向を確認し適切な支援を受けることができるように同法人の有料老人ホームへの住み替えを勧めることもある。事業所として重度化・終末期に向けた方針を明確にしており、看取りまで希望の場合には段階に応じて話し合いを繰り返し行い統一して支援するように努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>応急時の対応マニュアルを作成している。必要と思われる場合は適宜確認し、スタッフへ周知している。</p>	/	/
35	13	<p>○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回消防訓練を実施している。</p>	<p>年2回 同建物内のデイサービスと一緒に昼夜想定での避難・通報・消火訓練を実施している。今後敵的な訓練のほか、自主訓練の実施を検討している。</p>	

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>言葉掛けや対応に関し、当社の基本理念の一つである「尊厳を保つ」を実践できるように認知症、接遇について社内研修で取り上げている。 バイスティックの7原則やパーソン・センタード・ケアを理解するよう努める。</p>	<p>排泄時には、扉を閉める・カーテンを閉める、入浴時には、入り口に暖簾をかけるなど羞恥心・プライバシーへの配慮を行うようにしている。また、申し送り時には名前を使うのではなく、部屋番号などで個人がわかるようにしプライバシーに配慮している。</p>
37		<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>対応する職員の行動、言葉遣いに気を配り理解しやすいように説明を行った上で、意思や希望が出やすい環境作りに努めている。</p>	
38		<p>○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入浴の機会、起床時間など利用者の意思決定に合わせたケアを心がけている。</p>	
39		<p>○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している</p>	<p>更衣する時は、利用者に服を選択してもらえようようにしている。</p>	

40	15	<p>○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食材のカットや盛り付け、片付けを職員と一緒にしている。</p>	<p>利用開始時に好みや嗜好を聴取・把握し対応・反映させるように努めている。業者の立てた献立に応じた食材の搬入を受け、各フロアで調理・盛り付け・配膳・下膳・後片付けなど利用者と共に行っている。利用者の好みや希望を業者に伝え業者に柔軟に献立の変更を依頼することも行っている。時には、利用者の希望や好みを取り入れた献立を立て、買い物から事業所で行い利用者と共に楽しむようにしている。行事時には季節や好みが反映できるような献立を立て提供している。誕生会にはケーキで誕生日を祝うようにしている。</p>	
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、集会に応じた支援をしている</p>	<p>食事時間、午前、午後のお茶出しの時間以外にも、随時水分補給を勧めている。食事時間は利用者様に合わせた時間を十分に取、自立を促す介助に取り組んでいる。</p>	/	/
42		<p>○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている</p>	<p>毎食後口腔ケアの声掛けを行い、見守りや必要なら介助し、口腔内の清潔保持に取り組んでいる。毎週の歯科往診時に、職員もブラッシング等の指導を受けている。</p>	/	/

43	16	<p>○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>ユニットケアの特性を活かし、介助困難な場合でも複数で対応し、日中はトイレ介助で排泄を促し、個々の排泄パターンの把握に努めている。</p>	<p>失禁が多い方でも定期的な排泄の誘導を行いトイレでの排泄を勧めている。多くの方が尿とりパットを使用している。利用者の排泄パターンを把握し個別の支援を行うように努めている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる</p>	<p>日常の食事で食物繊維、水分摂取、乳製品等の食物で自然な形での排泄を促す取り組みをしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている</p>	<p>特に決まった入浴時間、曜日は設定せず、希望があれば応じる形を取っている。</p>	<p>夏場は隔日に入浴できるように支援している。おおむね同性介助を行っている。入浴拒否される利用者でも全職員で検討を重ね、誘導や声かけなどを工夫し入浴してもらえるようになっている。</p>	
46		<p>○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>一人ひとりの生活スタイルに合わせ、就寝時間までゆっくり過ごしていただいている。定期的によりネン類を清潔にし、休息出来る環境整備につとめている。</p>		

47	<p>○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や要領について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>使用している薬の内容の把握はもちろん、変更に関しても介護日誌の申し送り欄で職員全体が把握できるようにしている。</p>		
48	<p>○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>入居前に生活歴の聞き取りを行い、その内容をケアプランに取り入れるようにしている。当ホームでは飲酒・喫煙も認めている。</p>		
49	<p>○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している</p>	<p>個々に合わせた積極的な外出援助を日常的に行なっている。家族との外出の希望があれば、家族に連絡しご協力をお願いしている。</p>	<p>気候や天候が良ければ外出の機会を多く持てるように周辺の散歩や買い物に出かけるように支援している。同建物内のデイサービスの利用者との交流の機会があり、利用開始後にできた馴染みの関係が継続されている。外食の機会持っているが、嚥下や咀嚼の状態に応じて少人数の外食の機会となっている。</p>	
50	<p>○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>自己管理できる方は小遣い銭を持たれているが、出来ない方でも小口現金をお預かりし、買い物の際はご自身で支払いしていただいている。</p>		

51	<p>○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>利用者から希望があれば職員は家族に連絡し、事情を説明した後、家族と話せるように対応している。また、希望に応じて携帯電話の使用に対する支援も行っている。</p>		
52	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>共用空間は常に清潔に保ち、ベランダに花や植木を置き、リビングには季節を感じる写真などを展示している。</p>	<p>明るくゆったりとした共有空間でそれぞれ思い思いに過ごすことができるように、椅子やソファを配置している。朝は体操やカラオケを行い、共有空間で楽しめるようにも支援し居心地よく過ごせるように努めている。フロアのオープンキッチンから調理の香りや音が聞こえ、家庭的な雰囲気が感じられる。喫煙や飲酒の希望があれば、希望に応じてできるように職員が支援するようにしている。</p>	
53	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>リビング以外にも長椅子を設置し、気の合う方同士や一人でも過ごせるスペースを確保している。</p>		

54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせる ような工夫をしている</p>	<p>本人が自宅で使用していた家具類、テレビ等を持ち込んでいただき、住み慣れた環境を演出し、心地の良い住環境作りに努めている。</p>	<p>利用開始時には、利用者の馴染みの調度を持ちこんでもらえるように支援している。利用者のADLの低下により持ちこみの寝具、ベットなどでの対応が困難になり、家族と話し合いを通して介護用ベットの導入を勧める時もある。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>ホーム内には手すりを設置し、バリアフリーになっている。ベランダに、すのこを敷きリビングとの段差を少なくし自由に行き来できるようにしている。</p>	/	/

V アウトカム項目			
56	職員は利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聞いており信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての利用者 ②利用者の3分の2くらいと ③利用者の3分の1くらいと ④ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどいない

65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない
66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員からみて利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族が ②家族の3分の2くらいが ③家族の3分の1くらいが ④ほとんどできていない